

山岳遭難発生状況

(令和8年1月1日～令和8年2月15日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	25	5	1	6	19	31
令 和 7 年	21	3	0	7	18	28
前 年 同 期 比	4	2	1	-1	1	3

2 山域別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	11	44.0%	3	1	2	8
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計		11	44.0%	3	1	2	8
中央アルプス		2	8.0%	0	0	0	2
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		4	16.0%	1	0	2	3
その他の山岳		8	32.0%	1	0	2	6
計		25		5	1	6	19

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	5	20.0%	1	0	4	0	5
転 倒	1	4.0%	0	0	1	0	1
病 気	2	8.0%	2	0	0	0	2
道 迷 い	6	24.0%	0	0	0	9	9
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	2	8.0%	1	1	0	0	2
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	2	8.0%	0	0	0	2	2
不明・他	7	28.0%	1	0	1	8	10
計	25		5	1	6	19	31

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	1	1	13 54.2%	0	0	0	0	0	4 57.1%	1	17 54.8%
20代	1	0	1	8	10		0	0	0	3	3		13	
30代	1	0	0	1	2		0	1	0	0	1		3	
40代	1	0	2	1	4	8 33.3%	0	0	0	0	0	1 14.3%	4	9 29.0%
50代	1	0	1	2	4	3 12.5%	0	0	1	0	1	2 28.6%	5	5 16.1%
60代	0	0	0	3	3		1	0	1	0	2		5	
70以上	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	
計	4	0	4	16	24		1	1	2	3	7		31	
比 率	77.4%						22.6%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（2/9～2/15）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
2月9日	小谷村大字 千国乙地籍の山中	男	57	無事救出	その他	単独でバックカントリーを滑走中、新雪が深く、行動不能
2月11日	北アルプス 唐松岳	男	63	無事救出	道迷い	単独で唐松岳に入山し、バックカントリーを滑走中、地理不案内のため道に迷い、行動不能
2月13日	高山村大字 奥山田地籍の山中	男	20	無事救出	その他	2人パーティでスノートレッキング中、男性が滑落したが登り返せず、行動不能
		女	21	無事救出	その他	
2月13日	山ノ内町 平穏地籍の山中	男	18	無事救出	道迷い	単独でバックカントリーを滑走中、道に迷い、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、4件の山岳遭難が発生し、うち3件はバックカントリー遭難で、新雪での行動不能が1件、2件は道迷いによる行動不能事案でした。

バックカントリーによる道迷い遭難は毎年のように発生し、ゲレンデ感覚で一步踏み出したその先は、整備もされていなければ、案内標識也没有ありません。

道迷いが発生する要因として、

- ・ 他人のトレースやシュプールを安易に追う
- ・ 悪天候でホワイトアウト状態となり視界を失う、樹林帯で方向感覚を失う
- ・ GPSやアプリに過信し、下に滑っていけば大丈夫と安易に考える

等が挙げられます。

道迷いを防止する方法として、

- ・ 入山前に地形図、ルートをしっかりと確認する
- ・ 現在地をこまめに確認する
- ・ 悪天候が予想される場合には計画を中止する

等が大事です。

「自分だけは大丈夫」という過信が、遭難に繋がります。入山前には、事前の準備と慎重な判断を確実に行いましょう。